

[博士論文審査要旨]

申請者：阪口博政

論文題目 医療機関における原価計算データの活用に関する考察

審査員 荒井 耕
尾畑 裕
挽 文子

本論文は、医療機関における部門別原価計算を対象として、原価計算データを利用した効果的なマネジメントについて明らかにしようとした研究である。近年の医療制度の下で、医療機関は管理手法の導入を進めているが、部門別原価計算については運用・活用面で課題を抱えている。本論文の基本的な問題意識は、こうした状況下において、実務へ寄与する知見を得たいということと、原価計算理論への貢献を目指すことである。

本論文の貢献は、以下の2点である。

医療政策・管理学並びに管理会計学に跨る文献研究により、医療機関のマネジメント実務を意識した理論的検討を行ったことである。医療機関のマネジメントにおける会計・管理会計の位置付けを明らかにするとともに、事例分析によって現状の活用実態並びに促進・留意事項を抽出している。本検討によって、医療機関の経営層を主要な対象としたマネジメント教育の状況が示され、経営情報算出の目的明確化や経営情報に基づく管理手法に課題がある点を明らかにしたことは高く評価できる。

もう一つの貢献は、文献研究での検討を豊富な事例研究を通じて検証し、実践での要因や実践からの示唆を明らかにしたことである。部門別原価計算のシステムデザインや活用状況、また原価計算情報を利用した予算管理の実態について、複数の医療機関の事例による検討と、ひとつの医療機関に関する極めて詳細な事例の検討を経ることで、多角的な観点から浮き彫りにしている。本検証によって、多くの医療機関の間での共通の要因や個別性が示され、活用に向けた示唆を事例に沿って明確にした点は高く評価できる。

ただ、この研究にも問題点がないわけではない。日本の現状をもとに分析しているため、先進的な側面を持つ海外事例をもとにした観点からの分析や、理論化に向けた定量的な分析には踏み込めていない。この点は、本研究の欠点といえよう。もっとも、この欠点は申請者の今後の研究で克服されていくべき問題であり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。